



No.827
2025.12.28

発行：男声合唱団 昂
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

全国合発 万感の思いをこめて



11月22日、全国合唱発表会（神戸新聞松方ホール）

昂への出演依頼が続々と



11月16日、天王寺九条の会20周年記念のつどい
(演奏曲：SixPence、このみち、白樺、どんと来い、わが母のうた、昂)

- 1月の活動予定（会議を除く）
- 1/2(金) 13:30 声楽中村教室 (1/30へ変更)
 - 〃 17:30 定例レッスン (1/30へ変更)
 - 1/4(日) 13:30 新年ボウリング大会 (昂友の会とともに)
 - 1/6(火) 15:00 T1. T2パートレッスン
 - 1/13(火) 13:30 声楽千秋教室 I
 - 〃 18:00 Br. Bsパートレッスン
 - 1/15(木) 16:30 声楽千秋教室 II
 - 1/16(金) 17:30 定例レッスン
 - 1/18(日) 14:00 定例レッスン
 - 1/30(金) 13:30 声楽中村教室 (1/2から変更)
 - 〃 17:30 定例レッスン (1/2から変更)



12月14日、副首都・大阪都構想学習会
(演奏曲：どんと来い)

昂2025年を振り返って

昂事務局長 立川孝信

若くて情熱的な指揮者を迎えて3年。

2度目のコンサートを取り組んだが苦戦の連続だった。なかなか券が売れない。売る相手が死んでいる・・・体調が悪く行けるかわからない・・・、当日までで450枚、椅子を減らそうかと思った。しかし奇跡が起こった。立ち見が出来た。

なんと指揮者がマイクを取って空席案内をした前代未聞の出来事だった。当日入金が225枚もあった。長年培った絆を感じた。

荒木栄生誕100年を歌う企画もさることながら、荒木が死んでから生まれた指揮者が荒木の歌に触れ学ぶことが多かったと感想を述べたように、闘う人々を励まし、平和を願った歌を創り続けた荒木のすばらしさを再確認した。

そんな歌を歌ってきた仲間がこの間22人も星になった。初めて偲ぶ会を行ったところ31名参加、東京からも参加された。家族からも本人がいかに昂を生きがいにしてきたか語られた。

そんな仲間を大切に歩んだ25年の中で様々な歌を歌い「感動した、涙が出た」と多くの感想をいただいたのが大阪

母親大会の出演だった。「109台のベビーカー」は秀逸だった。その反響は天王寺区9条の会にも続いた。

歌が人々の闘いを励まし、生きる力になることを感じる喜びだった。9条バッチが胸に輝いていた。

そんな喜びを共にしてきた金八さんが奥さんの介護で退団されたが「卒寿まで在籍できたことを我ながら感心している」との言葉を残された。歌うことが健康の源・生きがいだとの昂での歩みが彼の人生に大きな力だったのだと思う。

そんな彼がいなくて、今年は荒木栄の歌で合唱発表会に臨んだ。60余年前の曲ながら現代にぴったりな「どんと来い」「わが母のうた」。

大阪から日うた祭典合発に見事推薦された。

賞には届かなかったものの講評には「歌い手、指揮者、ピアニストの音楽性が一体となった演奏に感銘を受けました。」「団としてのまとまりパフォーマンスに、その世界に引き込まれました。」「荒木作品の目指すべき姿だと拝聴しました。」と身に余る言葉が続きました。

さあ 来年は11月23日クレオ中央で第16回コンサート決定です。昂25年の歩みの中で綺羅星のように輝いてきた歌の数々をしっかりと人々の胸に届けようではありませんか！

日本のうたごえ祭典 11/22(土)～24(祝)

4年ぶりの全国合発出演、いろいろな節目の年に行われた神戸での祭典について感想を寄せていただきました。

日本のうたごえ祭典in神戸に参加して

T2 寺脇 伸育

昴が合唱発表会への推薦を勝ち取り、私にとっては何年振りかの日本のうたごえ祭典への参加、当日は、幾分高揚した気分で会場に向かいました。合唱発表会(一般B)以外は、Gライオンアリーナでの大音楽会に観客として参加しました。

大音楽会は“咲かそう希望の歌”をテーマに17の楽曲が演奏されました。何百人という人数の統一された演奏はいつ聞いても迫力があって、訴えるということに関しては一定数以上の演奏人数の確保の必要性は欠かせないと改めて思いました。

全体としての大音楽会の印象は、熱気あふれる感があり感じられなかったというのが率直な感想です。会場へのアクセスも関係してか、入場者数が5000人余りということもあったのかもしれない。

合唱発表会には11時の開会から参加、出演団体の約半数の発表を聞きました。その中で感じたことは、迫力ある演奏にとって、技術ではカバー出来ない、数がもたらす訴えの力強さは無視できないという思いでした。そういう意味では、昴の団員は40人は欲しいと強く思いました。

昴の発表については、私自身は力を出し切った気持ちでしたが、残念ながら、昴の入賞はなりませんでしたが。審査員がどのような評価をしていたのか知り、みんなの意見や感想を聞き、今後のレッスンの進め方に生かしていくことが、Next Oneにつながるのではないかと思います。

今年の日うた合発は100点満点

Bs 川妻 成美

今年の日うた合発での昴は、入賞はできなかったけれど私の中では100点満点、何にも悔しくない十分満足できる結果でした。

歌い終わった瞬間会場に響き渡った大きな拍手と、合唱発表会ではありえないまさかの「ブラボー！」の叫び声、このことこそが私たちの歌が会場の皆さんの心に届いたことへの評価であり、私たちが求めてきたものではなかったかと思っています。

全国に実力ある団体がたくさんある中で、人数も若さも技術力も劣っている昴ができることは、私たちの思いをどう届けるかです。今回「どんとこい」と「わが母の歌」を提案されたとき、私はすごい判断をされたなと思いました。よい評価をもらうために、ともすれば難易度の高い曲を選ぶのですが、今回の技術部の判断は、昴にふさわしい大胆で適切なものだったと思います。

次は第16回コンサートあと1年もありませんが、私たちの思いが皆さんに伝わる熱いコンサートを創り出せるよう、集中してレッスンに取り組みたいと思っています。みんなで頑張りましょう。

うたう思いが共有できたら素晴らしい

T1 吉田 雄三

久し振りに全国祭典に出場できたことに感激し、昴らしい歌を全国の仲間たちに届け、歌の思いを共有したい気持ちでステージに立ちました。

一曲目が終わると会場からは拍手が。二曲目が歌い終わると会場から拍手と声援に「ヤッター」と思った。

他団体の素晴らしい合唱発表を聞いて感じることは、やはり人数もあるが、研ぎ澄まされた声とハーモニーの素晴らしさに拍手を贈ります。

入賞はかないませんでしたが、発表した音源を数人にノ

ノ送信したら「ブラボー！」「生で聴きたい」「あらぐさの歌に引き込まれた」「素晴らしい！」などの返信を受けました。

それぞれが合唱に共感してくれたことに、これから先も歌っていけるのかなあと感じました。

楽譜の訂正など

技術部長 伊藤 知

これまでのレッスンを通じて印刷配布楽譜の訂正カ所の指摘、うたい方についての坂井指揮者からの注文がありました。休まずレッスンに来られている方にとっては、既にご存知のことばかりだと思いますが、ご確認ください。未練習の曲については、今後のレッスン進捗に合わせて、訂正・変更が生じることがあるものと思います。

各自、ご自分の楽譜に書き入れ、次のレッスンのでも同じ注意を受けずに歌えるようにしてください。

・ I've got Six Pence

1) 楽譜に書かれている強弱記号をよく見て、しっかりとした強弱変化をつけて歌うこと。

2) P.4の3段目、そして、P.6の2段目、「つか一つてかし」「ちゃやんねーかか」「におく一つてやろう」の部分はそれぞれノンプレスで途中で切らずにつなげて歌う=8分休符のところでのみプレスOK。

3) P.4の3段目とP.6の3段目、mpで始まる「なあにもしんまいはないうらぎるおんなもない」はレガートに歌う。

4) 続く、「おおさまになったきぶんで」の部分はリズムカルに歌う。「きぶんで」は少しハネ気味でもOK。

5) 「かえろういえへ」のT2はmfで、追いかけるT1・Brパートはmpで。

6) 「ひかるぎんかをにぎりしめーさいこうの日はきゆうりょうびの間ではプレスしない。

7) P.6はFで。「やったぜ」の「たぜ」、「ウキウキ」の後側の「ウキ」が弱くならないようにしっかりと出す。

8) P.7の2～3段目は、強弱変化をしっかりとつける。リピート部分は、1回目より2回目に、より強弱変化で歌えるように。

・ 道

1) 楽譜表記の音程ミスがありました。各自で訂正しておいてください。

①P.27の1段目、小節番号22ソロパート、2拍目4分音符の音程、B♭をCへ変更してください。

(同じカ所=P.11の小節番号63、2拍目4分音符の音程はちゃんとC音で書かれています)

②P.27の3段目、小節番号33合唱パート、1拍目の8分音符の音程、DをCへ変更してください。

③P.10の1段目、小節番号39 Bパート、3拍目の4分音符の音程、GをAへ変更(1拍目と同音程)。

④P.10の2段目、小節番号44と同45の縦線の上に練習番号□5が抜けています。書き入れてください。

2) 歌い方について指示・注意点です。

①24小節、合唱パートの歌詞付け、一番歌詞「わーれしらず」の「れ」を8分・「しら」を2個の16分で、2番歌詞「うーえにまい」の「え」を8分・「にま」を2個の16分で、分けるリズムで歌う。

②P.10、練習番号41は、Bパートがメロディーなので、T1・T2はしっかりと控えめにハモリ感を重視しながら歌う。

③練習番号51について、どのパートがメロディーを担当して歌っているのかを楽譜に書き入れておくこと。51の小節番号45～48はT2パートがメロディー、同49～50前半はBパートがメロディー。

④49～52小節の「ふるさとおもう」はつなげて歌う。「おもう」は「おもお」と発音する。

⑤P.11の3段目合唱パート「おもいださん」の1個の4分音符での「おも」は2個の8分音符へ均等に分けて歌う。

⑥P.12の2段目、長く伸ばすフェルマータが最後にある。きれいなPの響きでしっかりと聴き合って伸ばせるように、73小節頭のピアノパートsf音鳴るタイミングで、瞬間プレスしておく手もある。

(印刷配布済の16回コンステージ用楽譜集(昴25年のあゆみステージ)の楽譜について)